

図3

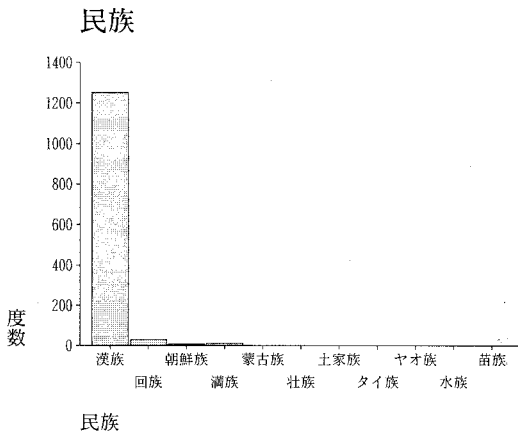


図4

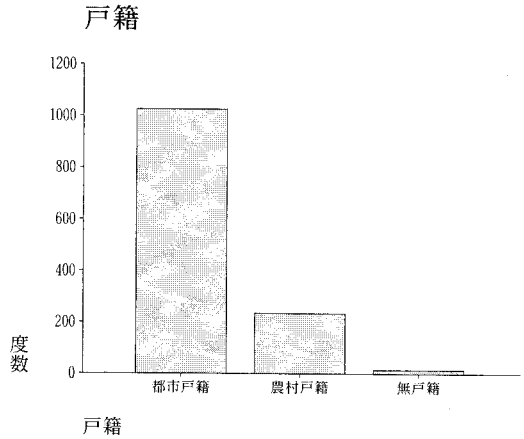


図5

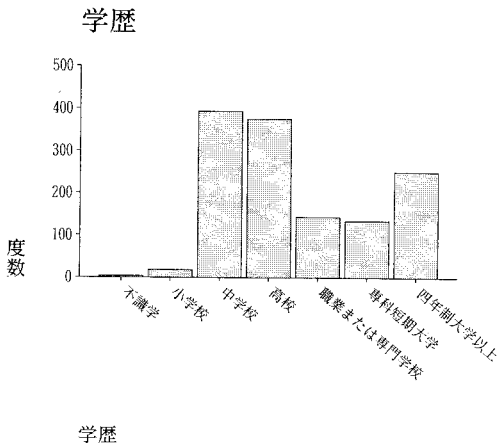
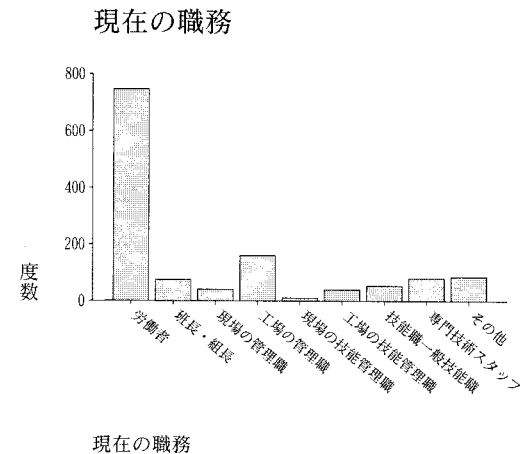


図6



以下に述べることは、おもに今回のアンケート調査の結果に基づいてのものである。

2. 職業生活に関する基本属性のクロス

企業の職業生活を考える場合、いくつかの要素が考えられる。ここでは、とりわけ今回の意識調査の特徴から労働生活の質に対応した40の質問項目から四つの項目を中心に考察してみる。まず、「仕事の内容や能力にふさわしい賃金が支払われている」「職場の作業環境（安全度・音響）が十分に整っている」「世の中のためになる仕事に就くことができた」「自分の仕事は単調でない」の四項目と年齢（回答に基づいて再コード化したもの）

とのクロスを取り上げたい。この四項目は労働生活の質にかかわるもっとも基本的な内容であると思われる。「賃金」と「作業環境」といった項目は、むしろ労働生活の物質的な面を反映している。それと対照的に「世の中のためになる仕事」と「仕事は単調でない」といった項目は労働生活の精神的な面を反映している。このような従業員個人の身近な問題は、経済改革開放の政策が実施されて以来、従業員自身にどのように反映されているか、その結果は表2～表5に示している。

改革開放以来、賃金制度（中国語：工資制度改革）の改革も行われた。計画経済時代の「多く働いても少し働いてももらう報酬が同じ」という大鍋飯⁷⁾式の一律主義システムが見直され、それに

7) 大鍋飯は、大きな鍋で炊いたご飯を、皆で食べる平等分配のことである。所得分配の平均主義時代の代名詞として使われている。